

第32回北海道中学生ハンドボール選手権大会 終了

お疲れ様でした！

2022年1月11～13日、初の地元全道大会、春中予選が終了しました。

頑張った選手、運営にご協力いただいた保護者の皆さま、本当にお疲れ様でした！ありがとうございました。

コロナ感染対策、そして大雪と、想定外のことが起きましたが、無事に大会を終えることができ、ほっとしています。

いろいろお話ししたいことはありますが、3つに絞ってお話ししたいと思います。



地元大会のメリット・デメリット

遠征せず、家からいつも練習をしているところで試合ができることは最大のメリットでした。「子供の体調が良かった。」との声がお母さん達から聞けて、全道大会を引き受けて良かったと思いました。

その反面、慣れた環境と緊張もあったと思いますが、試合直前の準備が足りなかったと感じました。函館は大会会場に入る段階で、気持ちも体もテーピングも準備万端な状態でした。特に2日目の朝、函館の選手も監督コーチも勝ちにきていたので、開館前から気持ちも体もテーピングも準備万端でドアの前に並んでいました。巴と桔梗男子、本通女子の選手も監督コーチも、函館アリーナでの朝と同じ顔をしていました。

函館の強さを感じました。



男子 「声は武器」

とにかく悔しい敗戦でした。

良かったところ、課題、たくさんありますが、GMから1つあげるとしたら、「声は武器になる」ということ。

年末に国士舘大学でプレーしていた三条OGのナオさんから言われたのが、「声は武器になるから、もっと声を出した方がいい！」ということ。月寒は声を最大の武器にして、前に縦に、戦ってきました。GMはこれまで、どの大会でも誰よりも「自分の声が1番」という自信がありました。初めて月寒には負けたと思いました。ベンチからの声をかき消されました。

声をチームの武器にしたいです。

また、終わってからたくさんの審判に対する不満の声がありました。確かに、こちらに不利なジャッジがありました。

しかし、もし、正当にジャッジされていたとしても、結果は変わらなかったでしょう。技術はこちらが上だと感じましたが、チームとしての「強さ」は月寒の方が上でした。

女子「差」

1勝をあげたことは自信になりました。
助っ人3人の素晴らしいプレーのおかげもありましたが、
4人が、練習でやってきたことを発揮したことが、
結果につながりました。

今大会女子は本通の“1強”で、本通と他のチームの差が
大きかったですが、9-32というスコア以上に、
「本通と戦える、勝てる」と感じたのではないのでしょうか。
小学校で3回、中学校になって2回、本通には負けていますが、
「7月の中体連で本通に勝つ！」

そう強く思ってこれから練習することが必要です。

今年は全中が函館開催、2チーム全国に行けますが、きっと、うちは本通と1回戦や準決勝であたると思います。
それが彼女達との宿命であり、越えなければいけない壁です。



最後に

大事なのはこれからです。

この春中が終わってから、札幌は一気に強くなります。

函館は手の届かないところにいてしまいます。

今の3年生は春中が終わってから中体連までの間、コロナに負けず、懸命に頑張り、強くなりました。

それでも、函館には届きませんでした。

GMはこれまで以上に、選手・監督コーチを支えます。

保護者の皆さんもサポートをお願いします。

そして、中学生は、「次は絶対勝つ！」と強く思い、練習から闘志を燃やして頑張りましょう！

連絡 お願い 連絡

まだまだ未定ですが、今後のスケジュールです。

3/13(日)十勝大会、3/19(土)・26(土)クラブ納会、4月中旬 十勝大会、4/29(金)30(土)5/1(日)札幌合宿、
5/3(火)4(水)道東中高生大会@よつ葉、6月下旬釧路練習試合、7/27(水)28(木)全道中体連@函館、
8/18(木)-21(日)全国中体連@函館、9/17(土)18(日)JOC@よつ葉

コロナ次第ですが、積極的に、札幌・釧路へ練習試合に行きたいです。

GM の目

今は、函館・札幌と大きな体格差は無いですが、夏の中体連の時には、函館・札幌は見違えるほ

ど体が大きくなります。体づくりも勝負はこれからです。

音更町役場の管理栄養士である吉田直美さんに依頼しまして、「ジュニアアスリートの食事」という資料を作ってもらいま
した。吉田さんに依頼したのは、「どれくらい食べたらいのか」、「練習前後の補食」、「夕食時間が遅くなってしまった
時のメニュー」「試合日の食事」です。次号以降でGMから詳しく解説していきますが、まずは読んでみてください。